

香川県地域包括ケアシステム推進委員会

はじめに

各士会会員の皆様には平素より当委員会における活動にご理解、ご協力賜り、誠にありがとうございます。令和6年度は委員をはじめ、会員同士の直接的な交流をする機会も増えてました。また、コロナ禍と比較すると香川県内においては我々セラピストへの期待がどんどん大きくなってきております。会員の皆様の「地域包括ケアシステム推進」へのご理解がますます進み、積極的に事業への参加していただけることを期待しております。

さて、香川県地域包括ケアシステム推進委員会では、地域包括ケアシステムの推進のために地域で活躍できるリハビリ専門職の育成や、香川県から委託を受け地域住民向けの認知症予防キャラバン事業への協力等、多くの活動を行っています。

本紙にて、香川県地域包括ケアシステム推進委員会の令和6年度の活動についてご報告いたします。

01

令和6年度地域ケア会議推進リーダー導入研修会の開催

令和6年10月10日、11日の両日、Zoomを用いたリモート形式にて地域ケア会議推進リーダー導入研修会が開催されました。

本研修会では、①地域包括ケアシステムについての概要、②地域ケア個別会議の位置付け、③求められるリハビリ専門職の役割等により地域ケア個別会議についての考えを深め、また④実際の書類等を用いて模擬会議を行い、会議の流れや提案の仕方等を経験しました。

また、研修会終了後には希望者・講師を交えて座談会を開催し地域の現状や地域ケア会議の現状や課題などについて本音での意見交換ができました。

現在、香川県内でも「地域ケア個別会議」が広く展開されていますが、検討内容や求められる役割は日々変化しています。地域の期待や要請に応えられるよう、今後も研修会を企画しています。初めての方はもちろん、新たな知見を得たい方にも実りある研修会となるよう準備し、お待ちしております。

参加者：両日で参加者は28名

令和7年2月26日、27日の両日、Zoomを用いたリモート形式にて介護予防推進リーダー導入研修会が開催されました。

本研修会では、①介護予防事業に関連する行政組織・関連団体と福祉計画、②介護予防事業の展開方法、③介護予防の実践、④介護予防事業の計画立案について講義、グループワークにて学びました。

高齢者の身体・精神面の低下によって要支援状態や要介護状態へ陥ることが危惧されています。そのため、高齢者支援においてセラピスト自らが動ける体制づくりを進め介護予防に取り組んでいく必要性があります。

実際の介護予防事業の関わりがイメージしにくい方や興味はあるけれどどうすれば良いかわからない方は、次年度の研修会に是非ともご参加をお願いします。

参加者：両日で参加者は20名

令和7年1月24日に穴吹リハビリテーションカレッジにて第10回香川県地域リハビリテーション合同研修会が開催されました。

今年度は、「在宅支援のピットフォールを学ぶ！～摂食嚥下と服薬管理の重要性～」をテーマに薬剤師の立道貴清先生と言語聴覚士の川野雅英先生にご講演いただきました。

内容として、薬剤師の立場と言語聴覚士の立場から診た薬剤の知識や在宅支援における問題点についてご講演をいただきました。最後には実際の症例を交えて会場参加者の皆さまを巻き込んで質問形式で検討を行い、活発な討論が行えました。



参加者：全体で参加者は26名

令和6年8月4日、香川県立文書館にて香川県長寿社会対策課主催、令和6年度専門職対象地域ケア会議にかかる研修会が開催されました。本講習会では、当委員会へ協力依頼があり、当委員会の委員が講師及び実習ファシリテーターを務めました。

PT・OT・ST・薬剤師・管理栄養士・歯科衛生士等といった地域ケア会議における助言者として派遣依頼のある多職種が参加し、地域ケア会議の実際や各専門職として求められる役割について学びました。また実習では、各専門職からの助言の内容から学ぶ内容も多く、1人の対象について多職種で考えることの大切さについて学ぶことができ、とても有意義な研修会となりました。

令和6年6月より令和6年度香川県認知症予防キャラバン活動が開催され、63件依頼があり、うち2件が中止となりました。講師は65名の派遣し、参加者数の総数は861名でした。

香川県では認知症予防に向けて、「運動・栄養・社会交流の三位一体プロジェクト」を推進しています。県からの委託事業である認知症予防キャラバン事業では、今年度もリハビリ専門職が介護予防教室、長寿大学、敬老会など高齢者の集いの場に講師として派遣され、認知症予防運動(コグニサイズ)を実践・指導しました。

参加者や依頼元である地域包括支援センター担当者からは、例年通り好評の声が多く得られました。超高齢化社会における老々介護や核家族問題などにより孤独に過ごされる高齢者の活動性の低下、体力・認知機能面の低下を心配する声も多く挙がっております。我々、セラピストの継続した活動や支援が今後必要とされてきます。会員の皆様のご理解・ご協力を今後もよろしくお願いします。

団塊の世代が後期高齢者を迎える2025年を目の前にし、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで送ることができるよう推進される“地域包括ケアシステム”の実現に向けた手法の一つに「地域ケア会議」があります。

地域ケア会議は、地域包括支援センターまたは市町村が主催し、設置・運営する「行政職員をはじめ、地域の関係者から構成される会議体」と定義され、地域の医療・介護に関わる多職種が参加します。参加者がそれぞれの専門知見を共有しながら、よりよい支援内容について検討していくことで、地域包括ケアシステムの整備・推進につなげていきます。

地域ケア(個別)会議の目的は①個別課題の解決、②地域包括支援ネットワークの構築、③地域課題の発見があります。我々セラピストに求められる最も大きなことは「生活の視点に立った助言」です。具体的には、生活課題を引き起こす要因の評価、ICF等を用いて評価結果を分かりやすく伝えること、疾患を踏まえた生活行為の改善見通しとリスクを示すこと、対象者の有する能力を最大限に引き出すための支援を提案することなどが求められています。

香川県内でも各市町で地域ケア会議が定期的開催され我々セラピストへ助言者として派遣要請があります。当委員会宛に届いた派遣依頼について会員の皆様にご協力をお願いすることがありますので、ご協力よろしくお願いします。

当委員会では“地域包括ケアシステム”、“地域ケア会議”について学ぶ機会を得られるよう毎年内容をアップデートして、地域ケア会議推進リーダー導入研修会、介護予防推進リーダー導入研修会をそれぞれ開催しています。積極的なご参加をお願いします。



令和6年度内に、香川県地域包括ケアシステム推進委員会事務局へ派遣依頼のあった地域ケア会議への派遣者数

・高松市・小豆島町	PT17名	OT24名	ST14名
・琴平町	PT1名	OT1名	
・東かがわ市	PT1名	OT1名	
・三木町	PT1名	OT1名	
・丸亀市	PT1名		
・観音寺市・三豊市	PT3名	OT2名	ST2名

ご参加いただいた先生方、ありがとうございました。

編集後記

私が香川県地域包括ケアシステム推進委員会に入り、最初に担当した研修会がリハビリ専門職を地域ケア会議へ派遣するための人材育成研修会(地域ケア会議推進リーダー導入研修会)でした。2015年当時は高齢者人口がピークを迎える 2025年問題、そんな社会を支えるための地域包括ケアシステム構築の重要性、と聞いてもいまいちイメージが湧かず、正直まだ遠い先の話だと感じた事を覚えています。

あれから10年、地域包括ケアシステムの構築は高齢者人口の増大だけでなく、高齢者世帯の単身化や 8060 問題など暮らし方の変化、そして社会保障制度では支える側である生産人口の急激な減少が始まるなど、課題が多岐に変化し、新たなフェーズに入りました。これまで当たり前だった共助や公助の支援が当たり前ではなくなる、そんな社会(時代)にもう足を踏み入れているのかもしれません。

そんな激動の渦中で、私たちリハビリ専門職はどのような変化が求められるのでしょうか？リハビリ専門職として、だけでは解決できない課題がそこにはあることを知り、さらに多職種や地域と共同で、そこで暮らす人々の自助力や互助力を可能な限り高め、維持していく支援が求められます。当委員会では、そんな地域の実情を知り、地域や他職種と繋ぐ研修会や派遣事業に取り組んでまいりました。そして、これらの取り組みの先にある社会は、いつか自分が暮らす町に、希望ある地域として戻ってくることを信じています。

最後になりましたが、今年度も当委員会の活動へご理解とご協力をいただきました先生方に、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。また当委員会の活動にまだ参加した事がない皆様にも、本報告集を通じ地域への支援に関心を持っていただき、一歩を踏み出すきっかけとなれば幸いです。

香川県地域包括ケアシステム推進委員会
委員長 前田 匡史